

# 令和8年度 学校経営の改革方針

鈴鹿市立若松小学校

## I めざす学校像

学校教育目標 『豊かな人間性と粘り強い実践力をもったこどもの育成』

- めざす学校像
- ・ こどもが楽しく安心して学べる学校 (わ)くわく 長期欠席対策
  - ・ 心身ともに健康で思いやりのあるこを育てる学校 (か)がやき 非認知能力育成
  - ・ 授業を大切にし、確かな学力を育てる学校 (ま)なびあい 学力向上×ICT
  - ・ 家庭、地域とともに歩む学校 (つ)ながるこ 地域連携

めざすこども像 ~ (わ)くわく (か)がやき (ま)なびあい (つ)ながるこ ~

## II 現状と課題

### 1 学力向上について ~授業を大切にし、確かな学力を育てる学校~

経年の国語科の課題は、主張と根拠の結びつきを明確にして記述したりする力などが弱く、CD 層の児童では記述式で無回答がみられる。算数科でも、計算・立式の理由や説明を書く力が弱いことが課題である。こどもの実態をもとに立式の理由や計算過程をグループ内で説明させるなどの実践に取り組んできたが、文章にして伝える力や仲間の考えを受けて自分の考えを深めようとする力は十分と言えない。これらの課題と「CD層の割合が高い」「家庭学習の時間が短い」「SP表に学力の二極化が見られる」「貸出冊数は増えても読書好きが増えていない」といった現状から、「確かな学力を育てる」ためには、算数科を中心とした校内研修による手立ての探求の継続、「読みとる力」を育てるための時間の確保、「書く力」を育てるための書く機会の確保についての工夫が必要と考える。

### 2 長期欠席対策について ~楽しく安心して学べる学校~

休み時間に担任や友だちと外で遊んだり、教室でにこやかに過ごしたりする児童は多い一方で、「巡回すくすく」、SLSによる登校支援、日本語指導の利用など個別の支援が必要な児童の割合(R6・7 約10%)は本年度も同じ傾向にある。丁寧な児童観察と保護者や関係機関との連携を常に意識していく必要がある。スクールカウンセラーなどから聞き取った情報(延べ25人)を限られた時間内に効果的に全体で共有することが経年の課題である。これらのことから、どのこも安心して楽しく学校生活を送れるようなハード面の環境整備、児童会や委員会などの取組の見届け後の自己肯定感につなげる声掛けや綴りでの繋がりといったソフト面の充実、全学年での人権教育の授業参観実施による保護者への啓蒙など、これまで地道に取り組んできたことを粘り強く継続できるような組織や仕組みづくりが今年度の課題である。

### 3 非認知能力育成について ~思いやりのあるこを育てる学校~

こどもの言葉で「あおられた」「あおってきた」といった理由で、些細な行き違いによるトラブルは学校生活だけでなく、帰り道や放課後の遊びの中でも多く、相手の状況を理解して対応できるためのSSTの必要性が高まっている。また児童質問紙の自己肯定感の低さは経年の課題であり、「話したり遊んだりする友だちがいない」と感じ担任などに相談にくる児童の中には、休みがち傾向がある。児童会活動や地域学習、出前授業などで活発に活動する姿が見られる一方で、日常の決まった友だち関係のなかでは、積極的に活動できない児童は少なくない。児童数が減少し、友だち関係の固定化により「話したり遊んだりする友だちがいない」と感じる児童が増えていかないよう、どのこも「自分にはよいところがある」と感じられるように「活躍できた」「うまくいった」と実感できる活動場面をどのように、学級活動や校内行事の中で設定していくか、活動内容やねらいの設定を工夫していくことが継続的な課題である。

#### 4 地域連携について ～家庭、地域とともに歩む～

若松地域づくり協議会や大黒屋光太夫顕彰会などの地域の団体と連携した取組を通して、児童の経験や知識、技術は高められてきた。地域の「若松フェスタ」では、5年生は光太夫太鼓を、3年生は中学生と音楽発表を披露し6年生は司会を担当してきたが、児童数の減少に応じた取組の見直しが課題であった。昨年度に地域と話し合い、今年度は3年生の発表に替えて全校児童で発表する。今年度も地域と意思疎通を図りながら、こどもの活躍の場を設定しながら、働き方改革に応じた取組の計画をすすめていくことが課題である。

また、4年生は地域の顕彰会と共に「若松の町を歩いて、光太夫や若松の歴史を学ぶ」をテーマに地域学習に取り組んできている。児童数が減少していくなか、これらの継続してきた地域学習の活動のねらいを再確認して、実施時期や連絡先などを含めた年間計画への位置づけを行い、職員の誰もが参照できる資料づくりが課題である。

家庭との連携では、ボランティアへの協力呼びかけや家庭学習習慣の確立に向けた学校全体での機運の創造が課題である。

### Ⅲ 重点目標と具体的な行動計画

#### 【確かな学力の育成】

- ・児童アンケート「学校の勉強はよくわかりますか」95%をめざす。
- ・授業改善 「授業力UP5☆ver.2」に基づいた算数科の手立てを探り、全職員で実践する。  
個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実をめざす支援の視点を心掛ける。
- ・授業力 ICT活用などの実践事例のミニ研修を行う。
- ・基礎基本 若松タイムを継続し算数科のつまずきやすい単元で取り組んだ内容を共有する。  
ワークシートやデジタルドリル、県のCBT活用による基礎基本の個別学習。
- ・家庭学習 家庭学習力を高めるための取組を行う。
- ・学級作り CD層や読書に親しみのない児童、家庭学習の定着が弱い児童などを個別に把握して、声掛けや綴りを通して個別支援の継続を心掛ける。
- ・土台作り 文字に触れ読み取る機会と考えを書く機会を意識して設定していく。

#### 【安心して学べる学校】

- ・児童アンケート「学校は楽しいですか」の肯定的回答95%以上をめざす
- ・児童アンケート「困ったことがあると先生や友だちに話したり相談したりできますか」の肯定的回答90%をめざす。(R6 87%、R7 88.5%)
- ・学校経営 長期欠席対策に取り組み、不登校を生まない学校づくりをめざす。  
特支Coを中心に管理職や担任、SC、SLSなど児童と関わる全職員による情報共有をもとに効果的な支援の推進を図り長期欠席対策に取り組む。
- ・学級経営 こどもとの温かい人間関係づくりや人権感覚の育成を図り、連絡なし欠席への速やかな対応など、日頃から児童や保護者から信頼される学級経営に努める。  
綴り方や面談などを活用して、こどもとの日常的なやりとりを大切にする。
- ・学級指導 どのこにとっても学級が「安心して学べる」居心地よい場となるよう日常的にSSTを取り入れる。  
不登校傾向児童の支援では最後を本人に取り組みさせるなどして達成感を持たせる。
- ・人権教育 人権教育を基盤とした集団づくりの力量を高めるための研修に取り組み、人権教育の授業参観を年1回行い保護者への啓蒙を図る。
- ・いじめ いじめ未然防止に向けた教職員研修を行い、いじめ防止のための授業を毎学期に1回学期はじめに各クラスで取り組む。
- ・環境整備 清掃の行き届いた安全で安心して学べる教育環境づくりを推進する。
- ・未然防止 少しでもこどもの気になる様子が感じられたら報告や連絡、相談をする。

## 【思いやりのあるこを育てる】

- ・ 児童アンケート「友だちのことを考えて行動していますか」90%以上をめざす。
- ・ 活動全般 教育活動全般において、非認知能力(やりぬく力、自制心、自己肯定感、社会性)のいずれの育成に関わるかを意識して取り組む。  
学校行事や学年行事など、全校や学年を対象に担当が話す時には、非認知能力に関わるよい事例を紹介して、子どもたちの意識を高める機会とする。
- ・ 学級指導 朝の会や帰りの会の「よいところ見つけ」「ポジティブカード」による友だちからの言葉や日記指導や綴り方の担任による赤ペン指導によって、子どもが「受け止めてもらった」「大切にしてもらった」などの経験を重ね、「自分は価値のある存在だ」という思いがもてるように取り組む  
学級活動の中の基本的な生活習慣に関わる活動や係・班活動などにおいて、あきらめずに最後までがんばる「やりぬく力」やよくないことはがまんするなどの「自制心」、ルールを守る「社会性」などの力を育む。  
些細な行き違いによるトラブルの場면을、相手の状況を理解して対応(社会性・自制心)できるための SST 習得の機会と捉えて、個別や全体の指導を行う。  
全クラスに配布した「いま、どんなきもち？」のポスターなどを活用する。  
児童数が減少し友だち関係が固定化しやすく、自分のことも友だちのことも固定した評価をしがちになる。発達段階に応じた体験活動や出前授業、キャリア教育に取り組むことで、再評価の機会を積極的に計画する。  
活動や作業の見届けを行って、個別に言葉がけによる評価を行って自己肯定感を醸成する。
- ・ 児童会 子どもたちの「やってみたい」を大切に企画・実践に取り組ませることで、児童会役員には自己肯定感を、参加児童には思いやりをもって行動する、協力して活動する、ルールを守るといった「社会性」を育ませたい。
- ・ 読書 朝の読書の時間や図書室の時間を活用して「こどもの非認知能力を高めるための絵本」などの読み聞かせを行う。

## 【家庭、地域とともに歩む】

- ・ 児童アンケート「地域の行事に参加していますか」95%以上をめざす。
- ・ 地域学習 若松の文化などに目を向けた地域学習に取り組み郷土を愛する心を育成する。
- ・ 学校改善 保護者・児童アンケート、学校関係者評価を実施し学校改善につなげる。
- ・ 情報発信 月2回の学校だよりやホームページ更新により、積極的な情報発信に努める。
- ・ 小中一貫 大木中校区の学校と連携して、小中一貫教育活動の取組を進める。  
千代崎中校区の学校園と連携して、児童の情報共有と人権教育の取組を行う。

## 【働き方改革について】

- ・ 勤務規律の理解を進め、総勤務時間の縮減に取り組む。
- ・ 校長通信を活用し勤務規律についての情報共有や周知徹底を図る。
- ・ 二部会にして校務分掌と行事を見直し、各学年の年間計画に行事の取組ポイントや連絡先、授業の資料などを整理する。
- ・ クラスルームによる打ち合わせの活用により、放課後開催の会議の時間の短縮。

- |      |  |
|------|--|
| 成果指標 | ・ 月 45 時間、年 360 時間を超える時間外労働者の延べ人数 (0 人) をめざす。<br>・ 一人当たりの月平均時間外労働 (30 時間以下) をめざす。<br>・ 一人当たり年間休暇(年休・特休)取得 (23 日以上) をめざす。 |
| 活動指標 | ・ 月 2 回設定した定時退校日に定時退校できた職員の割合 100%以上をめざす。<br>・ 放課後開催の会議の 60 分以内終了割合 100%以上をめざす。  |